

北部地域 療育センターだより

第2号

❖ はじめに

所長 今枝 正行

当センターの運営につきましては、日頃からの格別のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。秋の深まりを感じる今日この頃でございますが、この季節は、来年度に向けての就学や進級が相談の中心になってくる時期でもあります。そこで北部地域療育センターだより第2号は「就学に向けて」をテーマといたしました。当センターでは毎年、次年度にお子さんが就学を迎える保護者向けに、関係機関、地域のみなさまのご協力により、3つの学習会・懇談会を催しております。

1つは名古屋市教育センターに協力いただいたの、特別支援学校・特別支援学級就学説明会です。本号において、さる6月に行った会（講師 藤本泰孝 特別支援教育研究室長）の報告をさせていただきます。

2つめはサポートブック作成研修会です。毎秋、愛知県自閉症協会（つぼみの会）より講師派遣いただき、名古屋市発達障害者支援センター「りんくす名古屋」との共催で行っております。サポートブックは、保護者が子どもを支援者に託すときに知っておいてほしいことを記したノートで、子ども、保護者、支援者の三者の不安を安心へと変える共通理解を深めるツールとして生まれました。近年、この「サポートブック」が、就学期への活用はもちろん、サポートの質の向上、支援者の輪を拡げていく上で大きな役割を果たすようになってきました。子ども一人ひとりの固有の情報が、その人らしさとして尊重され、子どもの成長、自立がサポートの輪の拡がりの中でなされていくことを、みんなで目指したいものです。

3つめは通常級進学を検討しておられる保護者のみなさまとの学習会・懇談会です。発達障害は知識としては広く啓発されてきておりますが、子どもたち、保護者が「通常学級」で出会う困難と支援ニーズについての理解の歴史は浅いです。懇談会は保護者のみなさまが、就学後も地域でのつながりを継続し深めていっていただけるよう、その出会いの場となればと企画しております。懇談会は先輩保護者の自主グループのご協力をいただいております。幼児期に当センターを利用されていたみなさまからいただく支援は、地域療育の最も大きな力となります。

就学前後期は、関係者どうしの連携、協働を広げ、深めるチャンスでもあります。療育センターは幼児期から学齢期を通して関わることのできる強みを生かし、みなさまとの連携の輪をさらに広げていきたいと思っております。

みなさまよりのご意見、ご批評をお寄せいただければ幸いに存じます。

特別支援学校・特別支援学級 就学説明会について

1 はじめに

北部地域療育センターでは、名古屋市教育センター特別支援教育研究室長藤本泰孝先生を講師に迎え、特別支援学校・特別支援学級就学説明会を6月2日に開催しました。4歳・5歳児の保護者60名の参加がありました。ここでは、就学説明会の内容を紹介し、参加した保護者から出された質問を項目ごとに分類・整理し、就学年齢を迎える児童の保護者がどのような不安や疑問をもっているのかまとめてみたいと思います。



2 特別支援学校・特別支援学級説明会の内容

名古屋市教育委員会では、毎年、「名古屋の特別支援教育」を発行しています。ここでは、＜特別支援学校の教育＞＜特別支援学級の教育＞＜通級指導教室の教育＞＜就学指導＞について、それぞれの設置校名や入学・入級の手続が掲載されています。この資料に基づき、次の4点について具体的説明がありました。

① 4月入学を迎えるまでの日程

前年度10月1日現在で居住地の小校区ごとに新一年生の学齢名簿が作成される。その後、就学健康診断の案内が各家庭に届けられ、11月末までには健康診断が実施される。1月末までに区役所から就学通知（就学場所や入学期日）が送付される。県立の特別支援学校については、県教育委員会から送付される。入学説明会は1月～2月に開催されるところが多く、案内は各学校から送付される。

② 学校への相談の仕方や窓口

就学に関する相談は、居住地の小学校の教頭が窓口となる。相談は、6月～8月、遅くとも9月までにはして欲しい。早ければ早いほど十分な対応ができる余裕ができる。特別支援学校の見学は1学期中にしてもらおうとよい。学区に希望する特別支援学級がなく、他校を見学する場合は、居住地の小学校に相談し、他校へ連絡調整してもらうことになる。

③ 特別支援教育の現状

名古屋市では、特別支援学級や通級教室を増やしており、特別支援学級は全校配置を目指している。

④ 就学までに児童と保護者で準備して欲しいこと

学校に早期に相談してもらい、公開されている学校行事なども見学され、学校をよく知って欲しい。通学路を一緒に歩いてもらい、安全確認などをして入学を迎えて欲しい。子どもたちが安心して学校生活を送れるように、周りの大人が協力し合いたい。



3 参加保護者からの質問について

参加した保護者からは、活発に質問がありました。質問内容を項目別に分析してみると、次の2種類5項目に分類できました。

1. 特別支援教育制度について

- (1) 介助アシスタント制度の具体的申請、利用法、職員体制
- (2) 通級指導教室の具体的内容
- (3) 子どもの数と特別支援学級の存続との関係

2. 学校や教室へ穏やかに適応して行くために

- (1) 特別支援学校から特別支援学級へ、特別支援学級から特別支援学校への転校は具体的にどうなるか。
- (2) 就学後の相談の仕方。

講師の藤本先生からは、限られた時間の中で、大変丁寧に分かりやすい言葉で、明確にお答えいただきました。保護者が就学時に抱く心配や不安も相当部分、解消したと思われます。質疑応答の内容を正確に記述することは難しいですが、簡単に回答をまとめると次のようになります。

- 1-(1) 介助アシスタントについては、詳細な利用方法が決まっている。職員体制についても基準数があるので、各学校でよく相談して欲しい。
- 1-(2) 通級指導教室は、通常の学級に在籍する子が、例えば言葉、吃音などでその子に必要なことを学習するために指導している。通級担当教員と1対1で行う指導である。発達障害通級指導教室では、子どものニーズに合わせて2~3人の少人数指導を行っているところもある。自校通級と他校通級がある。他校通級では保護者に送迎をしてもらっている。
- 1-(3) 特別支援学級は1年から6年まで同じ教室で学習し、対象児が卒業するまで廃級はない。
- 2-(1) 転校は可能であるが、良い状態ではない時に環境が変わるなど影響が大きい。就学時点から、長期的目標や、穏やかな子どもの成長を考えて学校を決められるとよい。
- 2-(2) 相談は、まず学校でしてもらい、学級担任や、コーディネーター的役割の教頭などが相談にのれる。教育センターでも、電話・来所で相談を受け付けている。

4 おわりに

成長の節目で迎える、就園、就学、進学、卒業、就職などには誰もが不安を感じることです。不安を解消するための一般的な対処法として、まずは「相手を知ること」。つまり情報収集が第一歩ではないでしょうか。専門家や先輩から話を聞き(説明会)、実際に自分の目で見て(見学会)、自身の体で感じること(入学体験)の一連の流れを進めることが大切です。そのプロセスの中で進路への不安を軽減できれば、就学後の学校生活にもうまく適応できるでしょう。学校生活はどんな様子か、入学してから困ったことがあったら誰にどうやって相談すればよいのかなど、新しい環境に対する心配や不安を少しでも解消するために、学校教育を知ることが小さな一歩となります。北部地域療育センターでは、特別支援学校見学会として、今年度は、6月8日(火)西養護学校、6月15日(火)名古屋養護学校、6月22日(火)守山養護学校の見学会を実施しました。来年度以降も計画しますので、ご希望の方はご連絡ください。今後も、子どもたちがスムーズに学校教育へ移行できるよう支援して行きたいと思っております。



文責 療育係長 岡田敦史

保護者の声から ～就学に向けての悩み～

就学のような新しい生活環境、状況に適応していくことはどのお子さんにとっても大変なこと。そしてそれは、発達障害、特に自閉症スペクトラムの特性をもつ子どもたちにとっては最も困難が大きい時期のひとつであります。

学校生活になじめるか? 新しいお友達たちにうけいれてもらえるか? 学校にどう伝えたらいいか? ちゃんと理解してもらえるだろうか?

保護者の方の不安、悩みはとても大きいです。学習会あるいは外来でうかがった保護者のみなさんの声のいくつかを紹介させていただきます。

保育園(幼稚園)では送迎のときに先生とお話ができ、子どものようすを確認、相談できた。連絡帳もあった。小学校はどうなるか…



「グレーゾーンの子」と言われることがある。子どもたちを診断で白・黒判断し、分けられるような感じがする。がんばっている子どもに申し訳ない気持ちになる。



分団登校が心配。他の子にめいわくをかけるのではないかと、できれば自分が付き添いたいが…



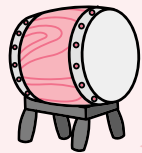
近所のスーパーのレジの方に「しっかりしたお兄ちゃんになってきたね」と声をかけてもらい、うれしく思わず涙が出た。

など

発達障害の大きな困難の一つは、その特性につき本人、保護者も含め気づきにくく、周りの人に理解されにくいことです。「困っているかもしれない、がんばろうとしている」と、本人やご家族の身になり、心の内面に想像力を働かせて困難をわかってもらう姿勢を、学校だけでなく地域の多くの方にもっていただくこと、これが何よりのエールとなります。すべての子どもとご家族が、希望に満ちて入学式を迎え、良い学校生活がスタートできるように、当センターは、学校はもちろん地域のみなさまとのつながりの中での支援態勢をつくっていくことに力を尽していく所存です。

文責 所長 今枝正行

7/31



楽しかった夏まつり



センター園庭や保育室にて第8回夏まつりが開催されました。当日は昼過ぎまで、いい天気。園庭でのお店屋さんの準備も整い、太鼓や踊りの練習もバッチリ!

ところが、雨がポツポツ…みんなで空を見上げて、お願いしましたが、開幕太鼓はホールで実施。名大「音舞」の熱気あふれる太鼓の音と踊りに、雨雲も吹っ飛びました。園庭ではお店屋さんの始まり、始まり～。プクプクバルーンさんの風船アートに歓声が上がリ、おいしそうにポテトやフランクをほおばる笑顔がいっぱい! 水風船や輪投げでは、欲しいものをゲットしたくて、真剣な表情の子ども達でした。保護者会のバザーや、四つ葉のパンも好評でした。

ボランティアのお兄さん、お姉さんと元気にバナナくん体操を踊って、最後はお待ちかね、今枝所長直伝のよさこい鳴子踊り。開設から8年間、欠かさず踊られてきた、伝説の踊りです。鳴子の音も高らかに、「ヨッチョレナ～」の掛け声を響かせて、楽しく夏まつりを終了しました。



～楽しそうに太鼓をたたく子ども達～

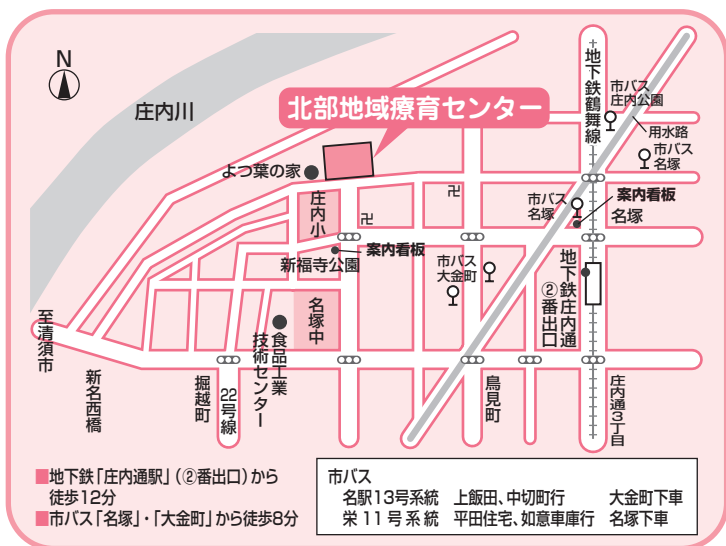


*** ボランティア募集中 ***

センターでは保育活動のお手伝いをしているだけの保育ボランティアを募集しています。

- ◎保育活動のお手伝い
(室内の活動や、園外への散歩など一緒に活動します)
- ◎センター行事のお手伝い
(運動会、夏まつりなど)
- ◎通園児の弟妹の保育
- ◎教材作りや環境整備など

短期間、短時間でもかまいません。現在、学生さんから主婦の方まで活躍中です。お気軽に下記までお問い合わせ下さい。



名古屋市北部地域療育センターだより 第2号

発行日 2010年10月

編集・発行 名古屋市北部地域療育センター

〒451-0083 名古屋市西区新福寺町2丁目6番地の5

TEL (052) 522-5277 FAX (052) 522-5279